

# II 大学概要



## II-1 法人情報

### (1) 事業者名及び代表者氏名

事業者名 国立大学法人琉球大学  
所在地 沖縄県中頭郡西原町字千原一番地  
代表者 学長 西田 睦

### (2) 構成員の推移 (各年度5月1日時点)

単位 [人]

|     | 分類                  | 2021年度 | 2020年度 | 2019年度 |
|-----|---------------------|--------|--------|--------|
| 学生数 | 学部学生                | 7,096  | 7,094  | 7,140  |
|     | 大学院生（修士・博士前期課程）     | 474    | 477    | 530    |
|     | 大学院生（博士・博士後期課程）     | 316    | 334    | 330    |
|     | 専門職学位課程             | 90     | 87     | 79     |
|     | 鹿児島大学大学院<br>連合農学研究科 | 28     | 28     | 31     |
|     | 専攻科                 | 0      | 0      | 0      |
|     | 附属学校（小・中学校）         | 1,079  | 1,089  | 1,090  |
|     | 合計                  | 9,083  | 9,109  | 9,200  |
| 職員数 | 教員                  | 824    | 826    | 834    |
|     | 事務職員（看護師等含む）        | 1,478  | 1,463  | 1,417  |
|     | 合計                  | 2,302  | 2,289  | 2,251  |

※学校基本調査に基づく（鹿児島大学大学院連合農学研究科を除く）  
※鹿児島大学大学院連合農学研究科については、農学部学務情報に基づく

### (3) 事業目的

#### 基本理念

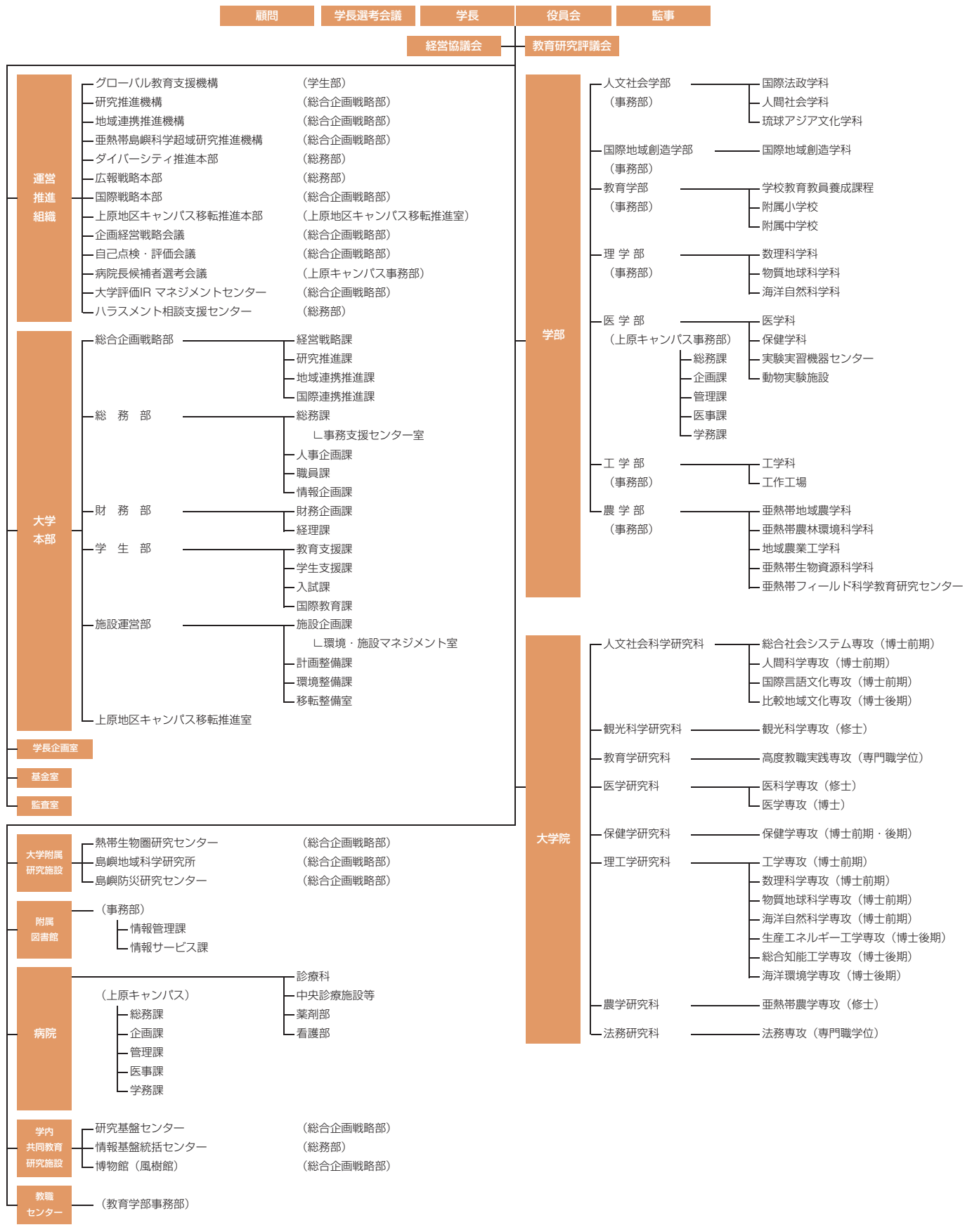
琉球大学は、建学の精神である「自由平等、寛容平和」を継承・発展させて、「真理の探求」、「地域・国際社会への貢献」、「平和・共生の追求」を基本理念とする。

#### 琉球大学の目指すところ－Vision－

本学は、“Land Grant University”の理念のもと、地域との共生・協働によって、「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」を目指すとともに、本学の強みを発揮し、新しい学術領域である Tropical Marine, Medical, and Island Sciences (TIMES：熱帯島嶼・海洋・医学研究)の国際的な拠点として「アジア・太平洋地域の卓越した教育研究拠点となる大学」を目指す。



# II-2 法人組織図 (2021年5月1日時点)





## II-3-1 各学部の紹介



### 人文社会学部

本学部は、法学、政治学・国際関係学、哲学・教育学、心理学、社会学、琉球とアジアを中心とする歴史民俗学、文学、言語学など、人文社会系の専門的、学際的な分野において真理を探究し、それを基に、個人の尊厳と基本的人権を尊重する平和・共生社会の形成者、社会全体の持続的発展に寄与する人材の育成を目指しています。



### 国際地域創造学部

2018年度（平成30年度）から、法文学部の4専攻課程、観光産業科学部の2学科の組織を再編してスタートした国際地域創造学部は、複合分野（観光、経営、経済、文学・言語、地理・歴史・人類学）の学際的学び及び各専門分野における体系的な学びを通して、「専門基盤力と地域国際基盤力」を身につけ、複雑化・多様化する国際及び地域課題に挑戦し、解決する高い専門能力を有する人材を養成する教育・研究を行うことを目的としています。

観光地域デザイン、経営、経済学、国際言語文化及び地域文化科学の5つのプログラムからなり、地域性と国際性を合わせた複眼的思考によって、「地域振興」、「産業振興」、「文化振興」に貢献できる人材の育成をめざす「未来志向型の教育」を展開します。



### 教育学部

グローバルな教育的視点に立ちながら沖縄という歴史的・環境的・文化的・社会的特性を活かした教育を行います。ここでは、子供と教育及び教科についての高い専門性と、現代的・地域的な教育課題に的確に対応できる資質能力を有する学校教員を養成します。また、学校及び地域社会における教育を担うことができ、共生型地域社会の創造に主体的に貢献できる、国際的な視野と深い専門知識と幅広い教養を身につけた質の高い人材を養成します。



### 理学部

本学部は、「理学」における伝統的学問分野をさらに充実させるとともに、沖縄の地理的特性を活かした特色ある教育研究を一層推進し、広く社会で活躍できる人材を育成する学部です。

今日の急激な学問展開と社会状況を考慮し、①基礎科学としての「理学」への期待と社会的要請に応え、高い理想と広い視野、強い信念、国際的素養を備えた人材の養成、②沖縄の地域的自然特性等の教育研究及び基礎科学が学問的土台になるような技術・環境・文化等の社会的要請に対応できる教育研究の推進を理念としています。



### 医学部

本学部は、医学と保健学に関する専門的知識と技術を修得し、高い倫理性を身につけ、医学・医療の進歩や社会的課題に柔軟に対応しうる医師、保健・医療従事者を育成することを基本目的としています。

加えて、沖縄県の置かれた自然、地理及び歴史的特性をふまえ、島嶼環境に由来する困難な地域保健医療の充実や地域特性に根ざした医学・医療の課題解決に努めると共に、アジア・南太平洋地域を中心とする南に開かれた国際性豊かな医学部を目指しています。



### 工学部

本学部では、亜熱帯島嶼地域における地域性、自然環境、歴史・文化に基づいた工学に関連した研究と教育をさらに深化させ、情報通信関連産業、製造業、建設業、電力産業などでの新たなビジネスモデルの展開や、国際物流ハブを核としたエネルギー産業などの新産業の展開推進など、新たな価値の創造へとつながる展開を目指しています。これを踏まえて、学士課程では、幅広い分野を網羅した体系化された人材育成教育システムの構築、社会ニーズの変化に柔軟かつ機敏に対応できる教育コース（1学科7コース体制）を構築し、これからの新時代を担う人材育成の体制を強化しています。



### 農学部

本学部は、沖縄の亜熱帯島嶼という地理的自然環境条件および歴史的・文化的特性を活かし、生物と人間の共存環境の構築を見据えた、持続的食料生産、地域農業、環境保全、生物資源・エネルギー利用、長寿・健康および発酵・生命に関する専門教育と研究を深化させ、その成果の蓄積・活用と人材育成によって、地域社会並びに国際社会の発展に貢献することを目的としています。



## II-3-2 大学施設の紹介

本学の施設のうち、環境活動に関わりの深い3施設をご紹介します。

### 研究基盤センター

化学物質、実験廃液、排水、分析装置等の管理を支援し、全学の活動をサポート

研究基盤センターは、機器分析施設・環境安全施設・RI施設・化学物質管理室・極低温施設の5部門からなり、各種共同利用機器の維持管理や実験廃液処理、排水検査、RI（放射性同位元素）管理、化学物質・高圧ガス管理支援、液体窒素・液体ヘリウム等の供給、各種セミナーの企画開催など幅広い分野で全学の教育研究支援を行っています。また、学外向けサービスも行っていきます。



機器分析施設・化学物質管理室

### 附属図書館

充実した資料と多様な学修スペースを整備。SDGs関連の企画を行う。

附属図書館には本館と医学分館があり、あわせて約100万冊の図書・雑誌が利用できます。資料の閲覧・貸出のほか、本館には学生のアクティブな学びをサポートするラーニング・コモンズや、グローバル教育に関する活動の場であるグローバル・コモンズ津梁など多様な学修スペースがあります。

また、所蔵する資料を様々な角度から紹介することで、図書館資料及び図書館を活用していただけるよう、主な利用者である学生を対象に企画展示をしています。さらに、沖縄関係の資料が充実していることも特徴で、学生・教職員だけでなく、県内外の多くの研究者にも利用されています。



沖縄・奄美の世界自然遺産登録に関する企画展  
環境報告書2020も展示された。

### 博物館（風樹館）

17万点あまりの貴重な資料を収載。島嶼地域の自然・文化を広く情報発信する。

琉球大学博物館（風樹館）は、学内の研究者が教育や研究活動の一環として、主に琉球列島で収集した約17万点の標本や資料を収蔵しています。一階にある常設展示室では、イリオモテヤマネコやヤンバルクイナなどの希少生物の標本をはじめ、首里城関連の考古資料、伝統工芸資料、農具などの民俗資料を展示しています。また、さまざまな動植物が観察できる自然学習の場として「学校ビオトープ見本園」を併設しています。2015年には、全国学校・園庭ビオトープコンクール（主催・日本生態系協会）で日本生態系協会会長賞を受賞し、特に地域とのパートナーシップの観点で優れていると評価を受けました。琉球大学では「地域へ開かれた大学」という方針のもとに、大学が生産するさまざまな学術情報を学外へも広く提供しています。当館では、広く学外の方々にも収蔵資料を活用していただけるよう、ホームページ上に標本データベースを開設し、標本情報等の発信を行っています。また、地域への貢献活動として、小学校などへの出前授業や教職員の研修会なども実施しています。



人文系展示室



自然系展示室














## II-5 琉球大学の環境マネジメントのあゆみ

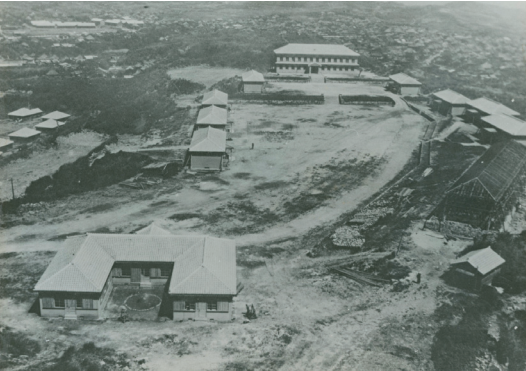
琉球大学は、戦後復興・教育振興への沖縄県民及び県系人らの強い思いをうけ、1950年5月22日、戦火で焼失した首里城跡地に開学しました。開学後はミシガン州立大学の支援のもと、「地域振興」を主題とするランドグランド大学という理念に基づき成長してきました。

### 持続可能な社会への貢献

|   |   |  |  |
|---|---|--|--|
| <p>SDGs 推進室を組織</p> <hr/> <p>学長メッセージ「琉球大学におけるSDGs への取組について」を発信</p> <hr/> <p>EA21 から大学独自のマネジメントシステムに移行</p> <hr/> <p>全学で EA21 の認証・登録</p> <hr/> <p>国立大学初のエコアクション 21 (EA21) の認証・登録</p> | <p>2020</p> <p>2019</p> <p>2013</p> <p>2009</p> <p>2007</p> |  | <p>2020 開学 70 周年</p> <hr/> <p>2015 資料館（風樹館）が博物館に昇格</p> <hr/> <div style="text-align: center;">  <p>博物館（風樹館）</p> </div> <hr/> <div style="text-align: center;">  <p>千原キャンパス</p> </div> <hr/> <p>2004 国立大学から国立大学法人に移行</p> <hr/> <p>1977 西原町千原にキャンパス移転</p> <hr/> <p>1972 沖縄本土復帰に伴い国立大学になる</p> <hr/> <p>1967 全国に先駆け大学附属の資料館を設置</p> <hr/> <p>1950 那覇市首里に開学</p> |
|---|---|--|--|



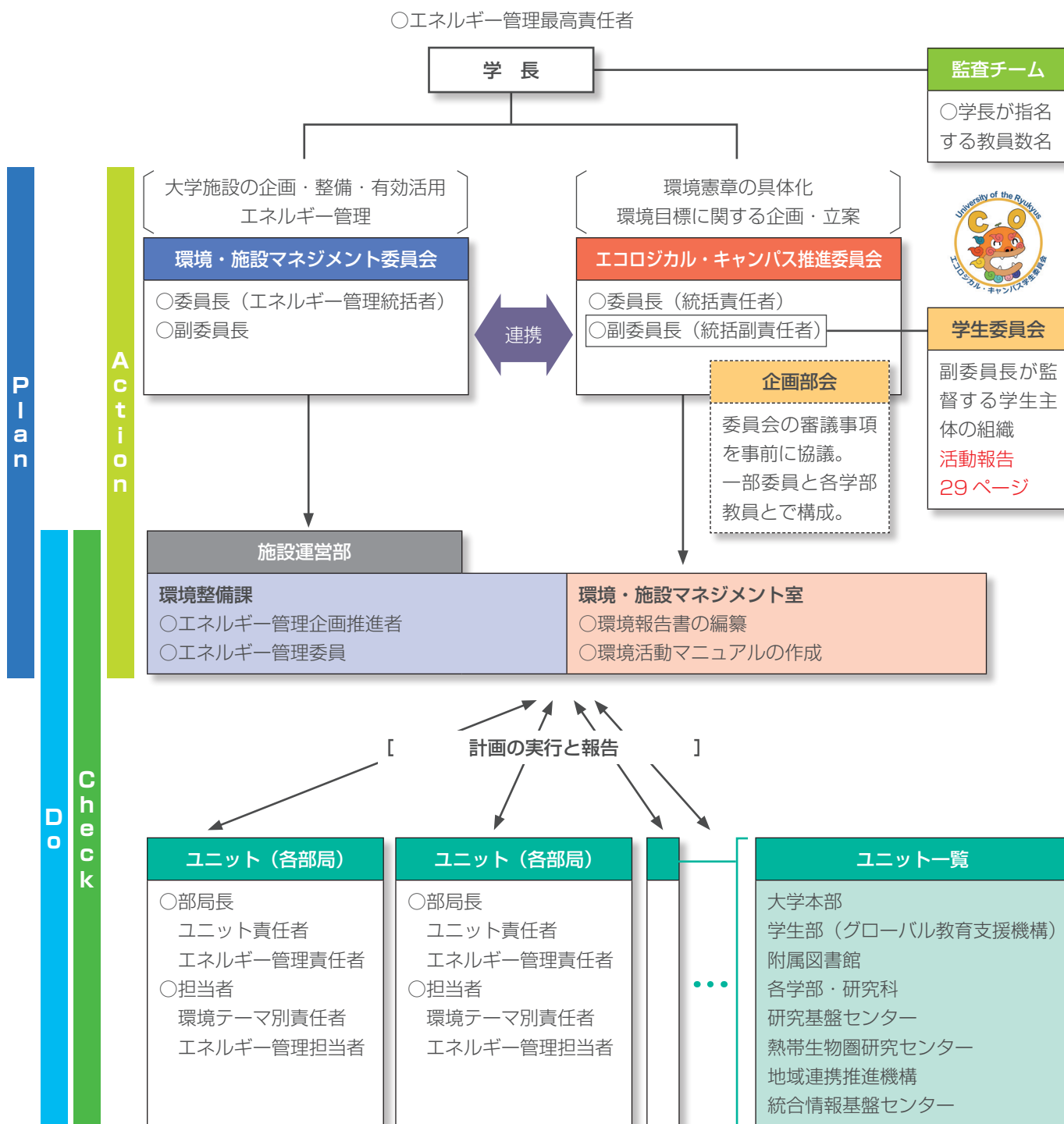
大学附属資料館（首里キャンパス）



大学附属資料館（首里キャンパス）



## II-6 エコロジカルキャンパス（環境活動）の実施体制



### ●環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者／理事・副学長（財務・施設・キャンパスマネジメント担当） 大城 功  
 担当者／環境・施設マネジメント室長 玉城 均  
 住所／沖縄県中頭郡西原町字千原1番地  
 電話／098-895-8178